

平成 25 年 1 月 16 日

福島県における文化財・歴史資料の現状

福島大学行政政策学類准教授

(ふくしま歴史資料保存ネットワーク代表)

阿部 浩一

東日本大震災の発生後 2 年近くになる福島県の文化財・歴史資料のおかれた状況を振り返ってみると、津波により博物館が丸ごと被災した例はなかったものの、須賀川市では土石流により文化財収蔵庫が被災しました。飯舘村では全村避難に際し、考古資料や古文書類が村外に一時搬出されました。そして何より、原発事故によって警戒区域内の文化財の多くが置き去りにされる状況が長らく続きました。2012 年 5 月ようやく福島県被災文化財等救援本部が設置され、9 月からは国の被災文化財等救援委員会と福島県教育委員会、警戒区域 3 町等による文化財レスキューが始まりました。警戒区域外に一時搬出した文化財は、文化庁「被災ミュージアム再興事業」の支援によって保全がはかれることとなります。

福島県全体を見渡してみると、県市町村は指定文化財の調査は行っているものの、個人所有のものまではなかなか手が及んでいません。県全体での被災状況の把握が進んでいなかったこともあって、被災文化財に対する県内の組織的・計画的な保護活用策や、国や県外からの支援は他県に比べても明らかに立ち遅れています。福島県の歴史・文化遺産は、地元関係者の使命感と熱意、そして市民の文化を大切に思う心と郷土愛によって何とか支えられているのが実情といえます。

ところで、1995 年の阪神・淡路大震災を機に立ち上げられた歴史資料ネットワークの活動を嚆矢として、大規模自然災害から貴重な歴史・文化遺産を守り、後世に伝えようとする歴史資料保全活動の輪が全国に広がっています。福島県でも、2010 年 11 月にふくしま歴史資料保存ネットワークが発足し、東日本大震災以後は県内での資料レスキュー活動に取り組んできました。

福島大学も同ネットワークの呼びかけ人の一つとして、関係諸機関・自治体と協力し、この活動に参加するとともに、自治体との連携に基づいて歴史資料の現況調査を始めるなど、歴史資料保全活動を軸に文化面での復興に向けて学術研究を進めてきました。震災後に新設された「うつくしまふくしま未来支援センター」内に置かれた「歴史資料担当」が、その中核的役割を担っていくこととなります。

昨年秋からの警戒区域での本格的な文化財レスキューの開始を受けて、福島大学うつくしまふくしま未来支援センターでは、シンポジウム「ふくしま再生と歴史・文化遺産」を企画しました。福島県の歴史・文化遺産の「今」をダイレクトに情報発信し、専門家・行政職員・市民が問題意識を共有することにより、ふくしま再生にとって欠くことのできない文化の復興のために何ができるのかをともに考えていきたいと思えます。

詳細は別紙の案内の通りです。五味文彦東京大学名誉教授・放送大学教授に基調講演「歴史資料の魅力と活用」をお願いし、シンポジウムは 2 部構成で行います。第 1 部では双葉町・大熊町・富岡町の 3 町の文化財担当者にお話しいただきます。第 2 部ではふくしま再生に向けたさまざまな取り組みをご紹介します。そして最後に全体討論を通じて、シンポジウムの成果としての提言を取りまとめたいと思えます。

福島大学うつくしまふくしま未来支援センター設立2周年記念第6回シンポジウム



ふくしま再生と 歴史・文化遺産



日時 / 2013年 **2月3日** 

13:00~18:00

会場 / 福島県文化センター 2階会議室

主催: 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター

共催: ふくしま歴史資料保存ネットワーク

後援: 福島県教育委員会, 勲福島県文化振興財団, 福島県史学会, 東北大学災害科学国際研究所, 福島民報社, 福島民友新聞社

お問い合わせ先: うつくしまふくしま未来支援センター (担当: 千明)

電話: 024-504-2833 E-mail: fure@adb.fukushima-u.ac.jp

「ふくしま再生と歴史・文化遺産」

開催趣旨

2011年3月の東日本大震災以後、福島大学はふくしま歴史資料保存ネットワークならびに関係機関・自治体等と協力し、さまざまな歴史資料保全活動に取り組みながら、文化面での復興支援に向けて学術研究を進めてまいりました。その一方で、原発事故警戒区域の被災文化財の保全は今もなお多くの困難を抱えています。

このシンポジウムでは、警戒区域における文化財保全の現場からの報告とあわせ、ふくしま再生に不可欠な歴史・文化遺産の保全の意義と今後について考えてみたいと思います。

PROGRAM

開会の挨拶 山川 充夫(福島大学つくしまふくしま未来支援センター長)

基調講演

「歴史資料の魅力と活用」 五味 文彦氏(東京大学名誉教授、放送大学教授)

シンポジウム第Ⅰ部

「原発事故警戒区域の文化財保全 ～被災文化財の今後を考える～」

- ・双葉町:吉野 高光氏(双葉町教育委員会生涯学習課)
- ・大熊町:中野 幸大氏(大熊町教育委員会教育総務課)
- ・富岡町:三瓶 秀文氏(富岡町役場生活支援課)

シンポジウム第Ⅱ部

「福島県の歴史・文化遺産の今、そして未来」

- ・計画的避難区域における文化遺産の保護 ～復活した飯館村文化祭が語るもの～
本間 宏氏(財団法人福島県文化振興財団歴史資料課)
- ・奉納絵馬の救出と地域の活動 ～須賀川市朝日稲荷神社の事例～
内山 大介氏(福島県立博物館)
- ・福島大学による歴史資料保全活動と地域連携
阿部 浩一(福島大学行政政策学類)

ディスカッションと提言(全報告者)

司会:菊地 芳朗(福島大学行政政策学類)



会場へのアクセス

福島県文化センター

福島県福島市春日町5-54 TEL 024-534-9191

【交通アクセス】

福島駅東口バス乗り場(9番)より循環バス(1・2コース)に乗車『文化センター入口』停留所下車、徒歩5分

※駐車場は満車となることもありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。

